

事業報告

1 助成事業実施者

一般社団法人三陸国際交流協会

2 事業名

東北と世界を結ぶ祭博 2015 ～大船渡復興東北三大まつり～

3 事業の実施経過

事業の開催準備：平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 10 月 16 日

事業の広報活動：平成 27 年 6 月 1 日～10 月 17 日

(ポスター7月下旬完成、配布。ホームページ8月中旬完成)

交流プログラム：平成 27 年 10 月 15 日～16 日

交流パフォーマンス：平成 27 年 10 月 17 日 10:30～10:45、13:45～14:15

プレイベント：平成 27 年 10 月 17 日 12:30～13:05

本祭：平成 27 年 10 月 17 日 17:00～19:30

市民報告会：平成 27 年 10 月 18 日 15:30～18:00

報告書とりまとめ：平成 27 年 10 月 18 日～12 月 25 日

完了報告書提出：平成 27 年 12 月 25 日

4 実施内容

◎韓国トブロン農楽団の交流プログラム

実施日：10 月 15 日（木）、16 日（金）

スケジュール：

10 月 15 日(木)12:15～12:45 住田町役場交流プラザにて、農楽の説明と演目披露

15:00～16:00 住田町有住小学校の学童にて演目披露・交流

17:00～20:30 大股公民館にて鳴瀬太鼓・柿内沢鹿踊と芸能交流

10 月 16 日(金)16:00～17:00 越喜来中学校で生徒達の芸能を見学後、演目披露

◎産業まつりにて交流パフォーマンス

実施日：平成 27 年 10 月 17 日（土）

実施場所：大船渡市産業まつり会場（大船渡市民体育館・駐車場）

出演団体：未國・鹿神楽、韓国トブロン農楽団

スケジュール：

10:30～10:45 未國・鹿神楽のパフォーマンス

13:45～14:15 トブロン農楽団のパフォーマンス・餅まき

◎プレイベント

実施日時：平成 27 年 10 月 17 日（土）12:30～13:05

実施場所：ショッピングセンターサン・リア いこいのひろば

出演団体：アイドルグループ「みちのく仙台 ORI☆姫隊」、鹿神楽、トブロン農楽団

スケジュール：

- 12：30～ 開催の御挨拶
- 12：35～ 鹿神楽の演目披露
- 12：40～ 「みちのく仙台 ORI☆姫隊」楽曲「君に届く風になれ」披露
- 12：45～ みちのく仙台 ORI☆姫隊による寄付金贈呈式
受領者：甘竹勝郎（一般社団法人三陸国際交流協会理事長）
- 12：50～ トブロン農楽団の演目披露
- 13：00～ 閉会及び『大船渡復興東北三大まつり』のご紹介

◎本祭

実施日時：平成 27 年 10 月 17 日（土）16:55～19:20

実施場所：岩手県大船渡市サンリア前県道

出演団体：岩手県盛岡市「さんさ踊り」

秋田県秋田市「竿燈」

山形県山形市「花笠踊り」

宮城県仙台市「すずめ踊り」

岩手県大槌町「白澤鹿子踊」

岩手県大船渡町「角中組虎舞」

未國「鹿神楽」

韓国「トブロン農楽団」

飲食出店ブース：@かたつむり、三陸夢を稔らせる会、三陸吉浜ラーメン番番屋、
BLUE CORN、BOSCO、ゆいまーる、ゆめんちゅ、他露店

入場料：有料観覧席 200 席（前売 1000 円 130 席完売、70 席協賛企業など関係者席）

スケジュール：

16:55～ 開催式

17:05～ 本祭

◎市民報告会

実施日時：平成 27 年 10 月 18 日（日）15:30～18:00

実施場所：NO.3 ギャラリー

出演団体：盛岡さんさ踊り、山形花笠踊り、仙台すずめ踊り、未國・鹿神楽、
韓国トブロン農楽団、黄金けせん！民俗芸能大祭実行委員会、大船渡
復興まつり実行委員会

（同日 11:00～15:00 第 61 回大船渡市民芸術祭“黄金けせん！民俗芸能大祭”に、協力参加）

観客数：約 3.4 万人（2 日間合わせて）

5 成果の公表

◎市民報告会の開催

開催日時：平成 27 年 10 月 18 日（日）15:30～18:00

本祭のダイジェスト版動画を作成し、その映像を報告という形で流し、市民及び参加者に見ていただきました。本祭の最初に流れた映像は、有料観覧席の観客、その付近で見ていた観客のみしか見ることができなかつたので、その映像を最初に見ていただきました。そして、その映像だけでは説明しきれなかつた、各招聘団体の踊りの様子や文化・由来などを説明。その後、芸能団体がちょっとした演目を披露し、技などを教え、体験してもらうなどの交流を行いました。フォーラムという方法ではなく、誰もが来て、見て、参加することができる参加型の報告会をとり、お互いに気軽に意見を交わしてもらったり、体験ができたりにするように工夫をしました。今までにない郷土芸能の魅力と奥深さを伝えることができたと感じています。郷土芸能は地域の自然や人々の生活と結びついているということが、それぞれの郷土芸能からは明白であり、郷土芸能は「自然の叡智」から教えをうけ、学びんできたものを踊りという形で表現した芸術でもあるということがわかり、愛・地球博のテーマである「自然の叡智」にそれぞれの参加者が結びつけることができたと確信しています。

6 事業の成果

○本年度は、初めて海外から伝統芸能団体を招聘しました。郷土芸能や伝統芸能を通じての国際交流を行うことができ、こういった事業はこの地域では新しい取り組みであったと言えます。韓国トブロン農楽団の方々には交流事業に熱心に取り組んで頂きました。住田町でのパフォーマンスや交流、越喜来での中学生との交流、近隣のイベントである「産業まつり」への参加など、積極的に外へ出て、市民と交流をおこなっておりました。こういった芸能の交流は、子供達や地域の人々にとっても、貴重な体験となり、良い刺激となりました。また韓国トブロン農楽団の方々にとっても、交流事業はとても良い経験・体験となったようです。

○伝統芸能を融合させたコンテンポラリーダンスの団体も招聘しました。郷土芸能・伝統芸能の枠組みという意味では同じですが、観客の方に違ったタイプの芸能に触れてもらうことができました。今までの郷土芸能ファンにも目新しいものを提供できたと感じますし、また、新しく郷土芸能に興味を持ってくれる方々が増えたことでしょう。

○東北の大きな祭りは夏に多く、夏と秋の間に開催されるまつりは珍しいということと、本年度で 5 回目の開催となるため、周辺の方々からの認知度が高くなりました。有料観覧席の前売り発売日には、130 枚のうち 90 枚が売れ、発売 1 週間で 130 枚完売しました。また、開催前には、市外からの問い合わせも多く、ある程度の認知度が出来上がってきていると感じました。また、今まで 1 日であったまつりを 2 日間にしたことで、より集客の増加を図れました。今までの集客は 3 万人程度でしたが、本年度は集客が約 3.4 万人になりました。少しの増加ですが、今後継続していくことにより、より認知度が高まり、内外の注目を集めることとなり、更なる周知、集客を図れます。

○今までは、招聘団体の方々は一泊二日でしたが、本年度は 2 日間にわたりまつりと交流を

行うということで、招聘団体の方々には宿泊をして頂いたので、その分、大船渡市の宿泊施設、飲食業等に貢献できました。また、まつりの実施日を新聞等で告知した後は、地域の宿泊施設は、本祭当日の10月17日は予約で一杯のところが多く、こちらが追加で宿泊を予約しようと思ったときに、とても難しい状態でした。まつりを見に来た観光客の方の宿泊、食事、買い物等により、大船渡市の宿泊施設、その周りの飲食業・海産物小売店等の売上は倍増し、大きな利益をもたらしました。韓国トブロン農楽団のファンといった方々が、大船渡まで足を運んでまつりを見てくださったということを知りました。おそらく、他にも秋田竿燈まつり、盛岡さんさ踊り、山形花笠踊り、仙台すずめ踊り、大槌白澤鹿子踊、門中組虎舞、未國・鹿神楽、それぞれのファンが大船渡市盛町へ足を運んでくれたことと思います。大船渡への経済的な貢献ができたと自負しております。

○会場は、県道230号を使用しました。当初は国道45号線を使用する予定でしたが、日程の変更などがあって、これまで通りの場所になりました。しかし、それが却って良かったのか、市民の方々の結束が強まったように感じます。特に、今まではポスターなどを貼ったりすることはなかったのですが、盛町全体にポスターを貼ったことにより、街全体がまつりに向けて盛り上がりを見せ、市民がまつりを一緒に盛り上げようという雰囲気になりました。また、実行委員会以外の大船渡市民から、多くのボランティアが参加しました。高校生もボランティアとして、参加してくれました。ボランティアの方々には、まつりの本番の中でそれぞれの団体の先導役を務めてもらったり、市外からのボランティアと一緒に活動してもらったりと、ボランティアさんたちが充実感を感じてもらえるようなポジションをお願いし、まつりが楽しいもの、やりがいのあるものだということを感じてもらえました。本年度は、高校生からお年寄りまで裏方として参加し、今まで実行委員会だけで行ってきた活動が広がりを見せました。今後続けていくことにより、新たな後継者の開拓に繋がっていくことでしょう。

7 作成した成果物

ホームページ、ポスター、パンフレット、新聞広告、横断幕、市民報告会用動画

8 総括

◆それぞれの郷土芸能の成り立ちを祭博の冒頭で紹介をしました。郷土芸能、伝統芸能は、生活と自然が密接に関わりできたものであり、自然からの恵みや、自然からの畏怖の念を内包しています。今まではただ踊りを見て、触れるだけであった人も、少しの知識が入ることにより、郷土芸能の踊りや音楽などから、自ずと自然に対する気持ち、地球に対する慈しみの気持ちが湧き上がったことと思います。また、屋外のステージで行われた為、大船渡の風土・景観を十分に味わっていただけたことと思います。郷土芸能の踊りと音楽、そして大船渡という土地が相まって、地球の壮大さを感じさせ、「自然の叡智」を表現した芸術でもある郷土芸能が、愛・地球博のテーマである「自然の叡智」を十分に思い起こさせ、まつりとともに人々の記憶に刻まれたことでしょう。

◆三陸の沿岸での祭りということで、その自然の豊かさ・魅力を伝えることはもちろんのこと、「郷土芸能」が新たな魅力として認識されたことと思います。大船渡市内だけではなく、市外からも郷土芸能のファンが訪れてきたことを考慮すると、これから、「郷土芸能」が新たな観光資源として成り立つことが十分に考えられます。今回、海外の伝統芸能団体、コンテンポラリーダンスの団体など、新たな団体を招聘したことにより、

今まで興味のなかった人々にも興味を持ってもらい、さらに内外の注目を集めることができました。文化や価値観、表現の方法に違いはあれど、伝統芸能・郷土芸能というベースがあることにより、人々の共感を得やすくなります。やはり、自然への思い、郷土への思いは共通しているものであって、誰もが持っている普遍的な想いであると感じます。祭りを通して見出された自然への想い、郷土への想いが、お互いの文化や価値観を超えて、尊重し合い、理解し合い、繋がり合うことのきっかけになったのではないかと感じます。また、それぞれの郷土芸能団体の踊りや妙技、そして郷土・自然への想いが人々をつなぎ、様々な違いや価値観を超えた「一つの地球」という意識を芽生えさせたと実感しています。

◆本年度は、2日間の開催日ということで、参加者はもとより、来場者が今までより増加しました。その結果、地球的規模の課題「自然と人間の営みの共存」に繋がるためのメッセージを多くの人々に伝えることができたかと確信しています。愛・地球博が将来の手本として、世界に向けてモデルを示したように、この祭博が、郷土芸能の祭りの新しい手本としての一步を踏み出したと感じています。今後継続していくことで、確実に愛・地球博のメッセージを継続して、繰り返し発信していくことが可能になります。

◆震災後に始まったこの祭りは、地域の人々を励まし、元気付けてきました。そして、祭りは地域にとってかけがえのないものだと多くの人が認識しています。しかし、若者の地域離れが加速し、後継者の問題が起こっています。実際に、大人が夢中になって演舞をしている様子や、裏方として汗だくになって準備を行っている後ろ姿を見せることは、大変重要であり、その後ろ姿をみて、これからを担う若者が育っていくのだと思います。今回の祭博では、高校生などの若者が積極的にボランティアとして参加をし、また周りの友達にも声かけをしてくれました。祭りが、普段交流のない大人と若者をつなぎ、地域の世代の垣根を超えた付き合いを可能にしていると感じました。今までの祭りと違った演出を行うことで、今まで興味のなかった若者が興味をもって手伝いに訪れ、地域や大人に対する見方や想いに変化が現れたと言えるのではないのでしょうか。少しでも若者の祭り離れ、地域離れに歯止めをかけることができたと感じています。

また、交流を積極的に行い、ただ見るだけではなく、参加したり、体験したりできる祭りを目指しました。観客の人々に郷土芸能をもっと身近に感じてもらえるように、交流プログラム、交流パフォーマンスを行いました。また、ボランティアに来てくれた方々には、比較的重要でやりがいのある仕事を任せました。やはり、この祭りは見て素晴らしいだけではなく、手伝ってもやりがいがある、面白いと思っていただくことによって、次に繋げることができると思うからです。そのためには、実際の体験の中で、祭りの魅力を伝えることが一番の近道です。今回参加してくれたボランティアの方々は皆満足して帰っていただきました。きっと次に行うときには、来てくれることと確信しています。また、来ることができなくても、祭りの素晴らしさを周りの人々に伝えてくれることでしょうか。新たな支援者を広げることは、つまり、愛・地球博の理念と成果を確実に周りに広げ、継承していくことに繋がっていくと言えます。

この祭りを通して、地域の人々へ、未来を担う世代へ、愛・地球博の理念と成果を継承することができたと感じています。